



市民の声を市政に反映

# 杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行  
**688号** 2017年12月12日  
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8  
 TEL・Fax : 870-0335  
 携帯 : 090-5587-7693  
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

再生可能エネルギーで

# 電力自給率100%超へ

## 第4回定例会一般質問 I

杉森議員は12月5日、牛久市議会第4回定例会で、①再生可能エネルギーによる電力自給率100%超に向けて、②「学校における働き方改革に係る緊急提言」に関して、について一般質問した。今号では①のAを掲載する。

## 急速なエネルギー転換

【杉森議員の質問】今、新しいエネルギー源への転換が急速に進んでいます。

新しいエネルギー源は、原子力ではもちろんありません。原子力は事故での制御が不可能で、人間と自然に対する大規模な被害をもたらし、実際には最もコストが高いからです。

## 太陽光・風力が原子力の倍

世界ではすでに2012年に太陽光と風力の発電量が原子力を超え、2016年には原子力の約2倍になっています。それは、石炭、石油、天然ガスなどの炭素エネルギーからの脱却でもあり、太陽光、風力、地熱、小規模水力、バイオマスなどの**自然エネルギー**や、燃料電池による**水素エネルギー**など、再生可能エネルギーへと転換する、大きな時代の転換期とも言えます。

## 100%超突破が100市町村

インターネットでスマートジャパンは次のように報じています。全国各地で再生可能エネルギーの導入量が拡大して、**地域ごとの電力自給率が上昇**している。自給率が100%を突破した市町村は2015年3月末の時点で100カ所に達した。  
 (次頁に続く)



最低賃金

# 時給1,500円に 引き上げを

## 水戸駅前で署名宣伝

茨城ユニオンは11月8日、水戸駅南口でユニオンの役員9名で最低賃金引き上げの街頭宣伝と署名活動を行い、杉森議員も顧問として参加しました。

## 茨城の最賃は時給796円

茨城の今年の最賃引き上げはわずか25円、時給796円で、月15万、年間200万円にもならず、ワーキングプアそのものです。

## 結婚の壁300万円超を

年間300万円を超えないと、結婚も高裁も難しいことが統計に出ており、「結婚の壁」と言われています。この壁を打ち破るには、時給1,500円以上が必要です。米国ではすでに超えている州もあります。日本でも実現を。

都道府県別では地熱が豊富な大分県が38%でトップを走っている。

## 茨城県は増加率トップに

そのあとに、注目すべき記事が続きます。代表的な例が茨城県である。電力と熱を合わせた再生可能エネルギーの供給量は1年間で83%も増えて、増加率では47都道府県でトップの伸びを記録した。太陽光発電が2.6倍に、バイオマス発電が1.6倍に増えている。これで太陽光発電の供給量は全国で2位、バイオマス発電も3位に拡大した。自給率は5.2%から9.4%へ上昇している、というのです。

## 264自治体を取り組み

環境省委託業務「平成26年度効率的な地域エネルギーのサステナブル社会構築支援に対する調査・検討委託業務」報告書によれば、「今後のエネルギー政策においては、…地域の実情に即して様々に展開されるエネルギーサービスを、地域の経済成長のきっかけとして、そのメリットを取り込んでいく姿勢が求められる。そのためにも、より地方自治体が主体性を持って地域の課題解決や地域メリットの創出を視野にエネルギー政策に取り組んでいくことが求められる。」としています。

既に地域エネルギー政策に取り組み始めている264の地方自治体においては、整備を想定しているエネルギー源としては、太陽光発電が最も多く、次いで木質バイオマス発電・熱利用、水力発電などとなっている。

## 群馬県の中の条電力

行政自らが事業主体となって政策に取り組む事例としては、群馬県中之条(なかのじょう)町では、中之条町と民間事業者の出資に



より、2013年に地域エネルギー会社「中之条電力」を設立。町内にある3基のメガソーラーから電力を公共施設等に供給。地方自治体主導での新電力設立は国初とのことです。



### 営農型太陽光発電の事例

ブルーベリー栽培の収入安定化

千葉県五平山農園

農林水産省「営農型発電について」より

<概要>

- ・ 事業実施主体:五平山農園 藤江信一郎(千葉県いすみ市)
- ・ 発電設備:営農型発電 発電出力 49.5kW、発電電力量5万3千kWh/年
- ・ 発電設備下部の農地:10a(ブルーベリーを栽培)
- ・ 建設費:約15百万円
- ・ 運転開始時期:平成27年3月

<特徴>

- ・ 5種類のブルーベリーやイチジクの栽培をしながら、農家民宿や観光農園を経営。発電設備の下部(10a)のブルーベリーは、平均糖度15度以上(通常12-13度で良品)、直径平均18mmの粒を揃え、色目もよく高評価。
- ・ 発電設備の設置、運営は同氏が代表を務める(株)いすみ自然エネルギーが実施し、地元金融機関からの融資で資金調達。
- ・ 日陰が生じることで真夏の収穫作業が楽になったほか、乾燥が防げたことによって散水作業が楽になった。ただし、発電設備の支柱によって除草時の作業が煩雑になった面も。
- ・ (株)いすみ自然エネルギーが得る年間の売電収入は200万円。近所の農家からは一緒に取り組みたいとの声もある。
- ・ 「若者が安定した収入を得ながら農業で食べていける姿を作りたい」との考えを持っている。